



Puten News

創刊号

ニュース

1

航空ジャーナリスト協会

ASIA AVIATION JOURNALISTS ASSOCIATION

〒105 東京都港区新橋1-18-2

航空会館分館内 日本航空技術協会気付

「風°天」の発刊に当って

中 口 博

航空ジャーナリスト協会々報「風°天」の発刊に当り一言ご挨拶申し上げます。

航空ジャーナリスト協会が昭和55年3月に第1回の会合を開いて正式に発足いたしました以来、月日の経つのは早いもので、2年半余りになります。歩みは牛歩もよいところながら、協会は着実に育って参りました。これもひとえに関係各方面から寄せられた暖かいご支援の賜で感謝の他はありません。

なかでも郵便連絡の場所を与えて下さった日本航空技術協会、ならびに運営の費用を捻出すためわれわれに出来るような仕事を与えて下さる日本航空宇宙工業会などに対して心からお礼申し上げます。

この機会に、協会の意図している活動、問題点および私なりの展望と云ったものを2、3申し述べようと思います。

当協会是一部有志の間で、70年余に亘るわが国の航空史の生字引と云える先輩方がご存命のうちに資料や情報を蒐集整理し、それらの逸散を防ぐ必要があるのではないかという意見が出たことが、協会結成のそもそもの発端であり、それが当協会の第1の目的にもなっています。しかし、事務所も持たず専属の事務員も備えない現状では、仮りにそれらの資料を寄贈なり借用なりさせていたゞいても、それを整理保存し、一般の方がたの展覧に供することは到底できませんので、この方面の活動は全く手付かずの状態にあります。本格的な航空博物館が作られて、私たちが上記の仕事でお手伝いできる日が来ることを待望しています。ただ、会員の野沢正氏、岩田尚氏を中心に「写真で

綴る日本航空全史」と云った本の出版計画が進められており、航空ジャーナリスト協会の名に相応しく、史実や考証の上で誤りのないものになることを期待しています。

当協会の第2の目的に、会員相互の親睦と知見を広めることがあります。そのため毎月1回の例会のほか随時見学会などを開いています。見学会は関係方面のご理解により順調に進められ、多くの成果を挙げております。例会はいつも和気藹々、脱線につぐ脱線で議事はなかなか進みませんが、出席者にとって大変楽しいものとなり、親睦の目的は十分達せられていると自負しています。

協会の第3の目的に、航空知識の普及および航空に対する関心の喚起がありますが、この事については会員の小川利彦氏、片桐敏夫氏を中心にいろいろな機会を捕らえ、同じ目的で行う他の団体の事業にお手伝いする形で実施しています。協会が自前でそのような事業を行える日が一日も早く来ることを願っております。

当協会の会員資格については、当初からさまざまな議論がありました。航空ジャーナリストとして既に実績のある人に限定せず（私など典型的な無資格者ですが）、協会の趣旨に共感し、その活動を支援しようとする方がたに広く門戸を開くべきだということのも有力な意見の一つでした。門戸開放には異存ありませんが、支持会員と云う形で若干でも会費を納めていただければ、当然それに見合う反対給付が必要なわけです。ここ暫くは有効な反対給付の提供に自信が持てないという理由で、手弁当で持出し覚悟の方に限ることにして来ました。しかし協会が、目的とする活動を活発に行う